

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100099	
法人名	有限会社保泉商事	
事業所名	グループホーム花みずき	
所在地	甲府市上阿原526番地1	
自己評価作成日	令和2年 9月 1日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来13年となりました。住宅街の静かな環境の中で木造平屋のゆったりとした住宅で衣 食 住を共に体操やレクリエーションなど毎日行っており、季節ごとの行事 誕生会での利用者と一緒にの手料理や余興など楽しい毎日過ごしております。 ボランティアさんが フルーツ 絵手紙 傾聴 紙芝居 職員の大正琴 オカリナ など聴かせて頂き楽しいひと時を提供しております。 庭の畑には春にはじゃがいも アスパラ 夏にはなす スイカ 秋にはさつま芋 ひまわりの花がたくさん身長をきそって咲き見事です。利用者ひとりひとりのニーズに答え安心 安全の支援をしております。小鳥が集まり餌をたべて木岐に止まり利用者が眺めているのどかな施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は木造平屋造りの1ユニットで国道20号(甲府バイパス通)から少し入った住宅地にあり、国道沿いには大型店が並び商業地と住宅地、果樹畑の生活環境にある。利用者の居室は全室南向きでウッドデッキが備えてあり、日当たりもよく気持ちよく過ごすことができる。住宅地の中にあり、自治会に加入して、地域の協力、近隣の人達と親しくを意義とした事業所理念を踏まえ、地域住民と普段の暮らしの中で関わりをもっている。職員も利用者本位の声かけをし、本人が自信をもって過ごせるように日々の支援に努めている。また、コロナ感染対策としては、次亜塩素酸を使つての清掃や空気清浄機、加湿器、換気にも気を配りウイルス対策を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度(コロナ禍以前) 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが(コロナ禍以前) 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざして、いつでも、どこでも、だれにでも。」を理念に掲げ地域の中で温かい介護サービスをめざしております。管理者と職員は理念を念頭において温かいケアサービスを目指して日々実践につなげております。	理念について、朝のミーティングや毎月のフロア会議の中で認知症についての勉強を行い、職員全体で話し合い共有している。また、玄関、キッチンにも掲示してあり日頃から意識づけがされている。利用者一人ひとりが楽しく過ごせるよう、日々の支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加わり地域活動に参加し、交流している。例えば地域の方から野菜、果物を届けてくださっております。	自治会に加入して地域の一員として、側溝の清掃に職員が参加したり、お寺の催しに利用者と一緒にいる。今はコロナの影響で行事が中止となり参加することは出来ない。近隣に住む人々からは、果物、野菜、衣類を届けてくれるなど交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方のご希望で施設の案内をしたり秋祭りにご招待をしたり祭りのおでんや焼きそばなどご近所のお届けして回っております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の割合で運営推進会議を開催し、サービスの向上に努めている。有識者や経験者など参加して頂きサービスの参考にしております。	2か月に1回開催していた運営推進会議をコロナの影響で中止していたが、11月からメンバーに返信用封筒を同封して書面で意見をもらうようにしている。事業所からの報告や寄せられた意見、要望をまとめ議事録として家族やメンバーに送っている。出された意見から家族に利用者の様子を動画や写真を送り伝えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や甲府南東包括センターには日頃から連絡をとり事業所の実情や家族の対応、ケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、ご相談して前向きに進んでおります。	運営推進会議の議事録や認定更新の機会に窓口に行き市の担当者へ事業所の現状を伝えるようにしている。利用者の中に、生活困窮者がいて、市の担当者が月に1回は面会に来て暮らしぶなど様子を見に来ている。今は、コロナの影響もあり面会は出来ないが協力関係はつくられている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝、夕のミーティングには管理者 ケアマネ 職員など身体拘束を理解して頂くようにしている。皆理解し納得している。玄関の施錠は利用者の安全など考えやむお得ず施錠しています。でもフィジカルロック、ドラックロック スピーチロックしてないがもし見つけたらすぐ注意をしあう事に決めております。	身体拘束委員会があり、3か月に1回話し合いが行われ議事録を作成し、職員の共有認識を図っている。利用者に対して行動を制限するような言葉使いを耳にした時は、職員間で注意し合うようにしている。入居したばかりの利用者で帰宅願望があり、家族の了解を得て玄関の施錠をしていたが、フロア会議の中でも話し合いを行い改善されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の内外の講習会に参加するようしております。しかし日が合わずあまり出席しておりませんが時間をつくり参加する予定であります。充分皆理解しております。またスピーチロックを聞いた時は、すぐ注意し合っております。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在 長く成年後見人を使っている方が一人おります。職員はよく理解しております。その必要性を関係者と話し合い充分活用しております。良く支援して頂いております。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約締結時や料金改定(介護度変更時)の際は詳細にわたる懇切丁寧(分かりやすい)な説明を行い、質問があれば伺い不安の無いよう疑問点など伺い説明して、同意を得ている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やイベントなど家族に通知を出して会議やイベントに参加して頂き利用者、ご家族の要望やご意見を聞きしております。運営推進会議の皆様にご相談に乗って頂き運営に反映しております。	運営推進会議に出席した時や面会時に意見、要望を聞いていたがコロナの影響もあり、面会制限があり聞く機会が限られている。面会は12月から禁止となり、お便りに面会に関するお知らせ等載せて家族に発信している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や朝のミーティングでは積極的に意見を聞くことができます。ほとんどが職員で話し合いで運営を進めております。	朝の申し送りや毎月のフロア会議で職員からの意見、要望を聞いている。日頃からもコミュニケーションは図るように心がけている。職員から要望のあった、浴槽に敷くマット、食器乾燥機等の購入や希望休など積極的に聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部の代表者は管理者の意見を聞きながら職員個々の努力や実績、勤務態度など 状況を把握し、職場環境・条件を整備しております。管理者は職員処遇改善 資格手当など改善をおこない働く意欲を持てるような環境条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量や個性を熟知し、把握し、施設内研修会や 勉強会を行っております。働きながら資格を採れるよう環境を作っております。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南東包括センターにいろいろ相談したり、近くのグループホームと交流を深め相互訪問してサービスに参考として質の向上に取り組んでおります。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、事前に施設見を兼ねお茶の時間や行事に参加して頂き、入居時には、居室に馴染みのものを持ってきて頂いている。また、本人が安心して話せるようご家族と一緒に話す機会を設け、現在の気持ちや今後の希望など聞き、安心して入居できるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、入居に至るまでの経緯やご家族の不安や要望などを聞く機会を設け、ご家族の不安を少しでも軽減できるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や担当されていたケアマネージャーから情報を収集し、本人の身体状態や生活習慣・日々の生活での思いなどに配慮して、必要な支援を見極めている。社会資源を活用できるよう対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができる事、したい事を考え、可能な限り役割を持って生活できるように支援している。また日常生活の中で人生の先輩としての意見を聞いたり、学ぶ事を意識して関わっている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告、適宜電話連絡も取り合い情報を共有している。電話・手紙など本人からの要望や外泊・外出・外食などご家族の要望に応じた対応をして、本人とご家族との絆が継続できるようにしている。また、施設の行事(お花見・敬老会・祭り・紅葉狩り等)に参加してご家族と共に楽しんで頂けるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのパン屋での購入・以前の住居周辺への外出や買い物、ご家族・友人・知人の面会時には写真を撮り居室に掲示している。また、趣味の活動(将棋・園芸・散歩・写真)などは、ボランティアの方の協力を得て行っている。	入居前の情報を家族から聞いて、つながりを継続できるように支援している。傾聴や散歩の途中に事業所に来てくれたりと利用者との関わりをもってくれる多くのボランティアの受け入れをして交流していた。コロナの影響で受け入れが困難になり、今は職員がレクリエーション等でカバーしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール・食堂の席は位置を考え、利用者同士で、会話ができるように配慮し、状況に応じて、職員が入ったり共通の話題や活動ができるよう配置を変えて、楽しめるようにしている。また、難聴の利用者には、ホワイトボード・ジェスチャー・文字カードの活用も、テレビは字幕を入れて皆と一緒に鑑賞できるようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・入所されフォローが必要な場合やお見舞・面会など行い、本人・ご家族の繋がりを大切にしている。退所後の来所も歓迎している。また、ご本人の経過を伺いご家族の相談にもものっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の生活歴や性格を把握し、本人の思いや意向、身体状態に応じ対応している。また、意思表示が困難な利用者には、ご家族より情報を頂いたり、日常生活の中での表情や動作を観察し職員・家族で検討している。	入居時に介護作成担当者が聞き取りをして、思いや意向の把握をしている。また、日々の関わりから聞いた思いや意向は、記録して職員間で共有している。意志疎通が困難な利用者には、家族の情報や表情、しぐさ等から汲み取り対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、生活歴・趣味・嗜好・性格・生活習慣など、差支えない程度に聞き取り、入所後も本人・ご家族との談話や話し合いのなかから、情報収集を行い把握に努めている。また、馴染みの道具や家具などを使用できるようにしている。(電気毛布・タンス・写真・バイオリンなど)			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの排泄・食事・バイタル・入浴・整容表などを活用と、日中・夜間の様子を観察・記録し申し送りや連絡帳で、状態や変化を職員間で把握できるようにしている。また、できる事・できなくなった事などアセスメントの際には担当職員と確認している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での日々の振り返りやミーティング、ご家族とも面会時や電話での近況報告時などに意見交換、主治医や看護師の意見などを参考に話し合い3か月1度モニタリングを行い計画書を作成している。	入居時に利用者、家族の意見、要望を基に暫定で介護計画を作成し1か月で見直しをしている。朝のミーティングやフロア会議でアセスメントを含め利用者担当職員や他の職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い3か月で見直しを行っている。家族の要望や変化が生じたときは、モニタリングに基づいて介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果は、個人の介護記録にその時対応した職員が随時記入し情報は日報に記入し申し送りや連絡帳で職員間で情報共有し、介護計画の見直しに活用している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時に家族が対応できない、ご家族がいないなど状況に応じて施設で対応している。2月に1回訪問理容による散髪や、民生員・ボランティア・近隣の方がいつでも来所できる雰囲気を作り歓迎している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問で絵手紙・写真・詩吟・将棋など趣味に合わせた活動ができるようにしている。また近所の寺のあま茶会の参加やセブンイレブンやスーパーへの買い物などを行い、外出や買い物の楽しみや近隣の方々に顔を覚えて頂き交流につなげる支援をしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望する医療機関への受診と協力医療機関の受診は本人・ご家族が選択し決めている。協力医療機関による隔週での訪問診療体制や協力薬局による訪問薬剤管理指導も受けられるようにしている。	利用者、家族が希望するかかりつけ医として協力医の訪問診療と以前からのかかりつけ医を受診している。訪問診療は月2回あり、利用者毎の診療ノートに記録している。受信結果や薬等変更があった時は、申し送りノートに記録し職員、家族と情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務し介護職より、利用者の心身の変化や気づきなど情報を伝え、また看護師用ノートなどに記入し意見を聞くようにしている。看護師より受診の指示がある場合は迅速に対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を作成し提供し、管理者・CMIは随時面会し病院関係者やご家族と情報交換し状態の把握に努めている。また相談にのりご家族の不安を軽減できるように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約前に、施設での看取りは不可能なことを説明し、入所の際には特別養護老人ホームへの申し込みを進めている。身体状態や日常生活の状況に応じ医師・看護師・本人・ご家族と職員で相談し話し合い決めている。	入居時に事業所では看取りをしていない旨を説明をし、家族の意向を踏まえた施設への申し込みを促している。重度化の見極めとしては、身体状況が低下し事業所で共同生活の継続が困難と医師が判断した場合で、家族に連絡して関係者で話し合いを行い他の施設や病院での対応としている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が予想される場合の対応は状態に応じて話し合いをしている。心肺蘇生法の訓練は年1回は実施しているが、事故発生時の初期対応や応急手当の訓練は行っていない。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定した火事・水害を想定し避難訓練を消防署の立ち合いと自主訓練を行っている。また運営推進会議で、課題を提示し意見や指導をして頂いている。	年2回、火災と水害を想定して利用者と一緒に日中と夜間を想定した避難誘導訓練を実施している。水害時にはお寺の境内が良いと運営推進会議のメンバーから提案され、利用者と一緒に避難誘導訓練を行い、避難に要した時間を計り記録している。近隣住民との協力関係も築かれている。食料、備品の準備もしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設で接遇・虐待や身体拘束の研修を毎年行い、笑顔と丁寧な言葉遣いで接し、人生の先輩として人格を尊重している。ま排泄・入浴時にはプライバシーに配慮した声掛けや介助を行っている。	接遇に対する事業所内研修で「あいさつ・表情・身だしなみ・言葉づかい・態度」の接遇マナー5原則をすでに学び身につけている。利用者の気持ちを大切にして、日常生活においても一人ひとりの生活歴を尊重し、さりげない言葉かけをするように心がけている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がしたい事などの希望や思いを、普段の会話から引き出せるよう心がけ、自分で決定できるように働きかけている。希望や思いを表現できない利用者は、表情や行動を観察し読み取っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先せず、その日の利用者の状況やペースに合わせて活動の内容を変更するようにしている。また活動を行う際には、参加を促すも参加されるかどうかは意思を確認している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後は、更衣・洗顔・歯磨き・整髪など、声掛けや介助で継続できるよう支援している。帽子・スカーフの着用など一人ひとりこだわりや習慣にも配慮している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業務用献立配達サービスを利用し、季節やに合わせたメニューになっている。職員とテーブル拭き・配膳・片付け・食器洗い・献立記入など利用者のそれぞれ得意な場面で活躍して頂けるよう、声掛けの他、職員と一緒にするなどして支援している。また施設行事や誕生日会などでは季節の好きな食べ物を提供しております。	ご飯、汁物は事業所で用意し、業者から調理した副菜が届き温めるなど手を加えて盛り付け、配膳等を利用者と一緒に行っている。苦手な物やアレルギーのある利用者については、事業所に用意してある食材で調理し替えている。行事食を毎月実施し、利用者の好みの物を作るようにしている。食材は職員が用意し利用者も出来る事を職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された、高齢者用の食事を提供している。食事量を記録し摂取量を確認し、10時・15時・入浴前後の水分補給の他、嗜好や要望の他天候や気温など季節などの状況や熟発などの体調に応じた補給もしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の口腔ケア・義歯洗浄は、利用者の力に応じて声掛け・誘導・介助し行い、夕食後の義歯消毒は職員が行っている。生活習慣の違いや拒否のある方は、職員を変えたり状況に合わせている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々の状況を把握し、必要に応じて声掛け・誘導を行っている。トイレでの排泄を基本とし支援している。また気持ちよく排泄できるように、危険のない限りは排泄が済むまでは、外で待っている。	排泄チェック表を使用し、利用者の排泄パターンを把握してトイレで排泄できるよう支援している。日中、夜間ともオムツを使用している利用者はいない。夜間、ポータブルトイレを数名使用して対応している。パットの大きさも、昼・夜替えない配慮をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防や改善の為、毎日のラジオ体操・レクでの運動・散歩などの活動と麦ご飯・牛乳・寒天ゼリーなどの食事を提供している。また、医師に相談し、利用者の病歴や身体状況・生活習慣に合わせた下剤の服用と観察をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、月～土曜日の午後からの入浴をして頂いているが、要望や失禁時などの不快感のある時は午前中や日曜日も対応している。気が進まない方は、タイミング・声掛けの工夫をし、場合によっては清拭・部分浴などで対応している。多種の入浴剤で視覚・嗅覚を刺激し楽しく気持ちの良い時間を提供している。	午後からの入浴となっているが、週2回を基本としている。利用者の希望や状況に応じていつでも入浴支援している。入浴剤も数種類用意して、気持ちよく入浴できるように配慮している。使い慣れたシャンプー、リンスを持ち込んで使用している利用者もいる。入浴を拒む利用者に対しては、声掛けの工夫や、職員を替えたりと入浴を試みている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・消灯時間の設定なく、規則正しい生活を送れる範囲内で、自分のペースで休んで頂いている。また、電気毛布を使用したり、ホールでテレビ鑑賞やお茶を飲んだり希望に応じて、個々のスタイルを尊重している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局による居宅管理指導を受けており、薬剤師との連携を図っている。症状の変化は医師・看護師に報告している。服薬表で用法・副作用については確認でき、変更や追加があった場合は、連絡帳に記入し周知している。また、症状の変化など気になる点がある時は、看護師や薬剤師に確認し指導を受けている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の能力や体調や気分に合わせて、掃除、洗濯干し・たたみ、盛付、配膳、食器洗いなどを行って頂き、得意場面での活躍や興味がある事・熱中できる事などで、生活の中に張り合いや喜びを引きだせるように努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の会話の中から、行ってみたい所や思い入れのある場所を教えて頂き、担当職員やご家族と外出できるようにしている。また、テレビや広報などから猫展や祭りにも出かけたリ、季節を感じられるようお花見・紅葉狩りなどにご家族やボランティアの方々の協力を得て車椅子の方も含め利用者全員が外出できるようにしている。	コロナの影響で以前の様に外出することが困難になっている。以前は希望する場所や季節を感じる事ができる場所への外出もしていた。日曜日等人出が少ないときに、周辺を散歩している。寒い時期は、事業所内の廊下を歩いたり、バルコニーに出て戸外の空気に触れるようにして気分転換をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人から希望があった場合はご家族に相談しお小遣いを所持している。買い物の際は、飲みものなど購入されている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限なく希望があれば使用できるようにしているが、掛け間違いやご家族の連絡先を忘れている場合は、職員が代行し手掛け本人に渡し話して頂いている。絵手紙のボランティアの協力で、年賀状や暑中見舞いなどがききや、ご家族への思いなどを綴った手紙をレクとして行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、廊下の壁には、レクや行事で楽しまれた思い出の写真を貼り、ホールには、毎月の行事の作品を展示や置物をして日々の暮らしの中での楽しみの一つになるように努めている。また居間・台所・食堂・トイレは次亜塩素酸を使い職員が清掃し、空気清浄機や加湿器を使用し、ウイルス対策も行っている。カーテンの開閉は利用者様が自由に行ったりもしている。	共用フロアを挟んで居室がある。日中利用者が過ぎしている共用の場所は明るく清潔感がある。また、廊下の壁には行事の写真が貼られ訪問した家族も日頃の様子を知ることができる。洗面所やトイレは広く利用者に使いやすくなっている。サンルームやウッドデッキは洗濯物や布団干しに利用して日当たりもよく居心地よく過ごせるようになっている。換気や消毒とコロナ対策も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルを3か所に分け、食事のスピードや会話・異性の意識などから席の場所を決めている。誕生日会・ボランティアの方の来所・行事などでは、テーブルを囲めるように配置を変えている。日常生活の中では、ホール・食堂・居室と好きな場所で過ごせるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人・ご家族と話し合い、使いなれた馴染みの家具や食器・思い出の写真を持ち込んで頂き、本人と一緒に配置し、居心地よく過ごせるようにしている。	居室は前室南向きで、共用のウッドデッキが付いている。日当たりが良く、和室と洋室の二つのタイプがある。押し入れタイプの大型収納やエアコン、カーテン、コールが備えてある。整理ダンス、テレビ、写真等を持ち込んで利用者や家族で部屋作りをし、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・廊下・トイレ・脱衣場に手すりを設置しており、歩行時の安定が図れるようしている。また、運動時に使用している。洗面所は共同使用になって、自立している方は上段、車椅子の方や椅子を使用すれば自分でできる方などは下段を使用し、譲り合いながら使っている。			